

研究のなまえ「成人期を迎えた小児がん経験者に必要な支援の検討」

文責：寺田和樹（いなげ未来クリニック）

どんなことを調べようとした研究ですか？	小児がんの治療成績は向上し、成人期を迎える小児がん経験者は増加しました。小児がんは退院後にも身体・心理社会的な問題を抱えることがあり、長期フォローアップ外来（継続的な外来通院）での支援が必要と考えられますが、必要な支援は十分に明らかになっておりません。 成人期を迎えた小児がん経験者に必要な支援を全国調査しました。
どんな人に調査しましたか？	全国の患者会を通じて、現在 18 歳以上の小児がん経験者に郵送でのアンケート及び一部の方には対面でのインタビュー調査を行いました。
何人くらいからお答えいただけましたか？	121 人の方からお答えいただきました。
どんな結果でしたか？	身体的な合併症及び合併症への不安は80%の小児がん経験者に生じておりました。小児がん経験者に対して必要な支援として、「医療者からの晩期合併症に関する説明」が挙げられました。支援を提供する場である外来通院の継続率は年々低下しており、医療者、小児がん経験者いずれの要因によっても外来通院は途絶えておりました。 自分の長期フォローアップレベルを答えることができないということは、外来通院を途絶えさせる独立した要因でした。外来通院を継続させるために必要な支援として、「医療者からの外来通院継続の必要性」、「医療機関受診の利便性」が挙げられました。
どんなことが分かりましたか？	成人期を迎えた小児がん経験者の多くが晩期合併症に関する問題を抱えている現状が明らかとなり、必要な支援として医療者からの晩期合併症や外来通院を継続することの必要性を求めていることがわかりました。また、通院を継続するために医療機関受診の利便性が求められていることがわかりました。
この研究は小児がん患者さんとどんな関係がありますか？	医療者は小児がん患者さんに晩期合併症に関しても適切に説明する必要性があることを示しました。
これからこの研究はどのように役立ちますか？	治療終了後の長期フォローアップを考えるにあたり、晩期合併症の説明は十分に行う必要があることが明らかとなり、その説明の時期など、今後の長期フォローアップ体制を構築するうえで重要なデータとなりました。
関係する他の専門医、診療科は？	成人診療科
詳しく知りたい場合のリンクは？	https://onlinelibrary.wiley.com/doi/10.1111/ped.15047